

早い対処で目に見えて改善

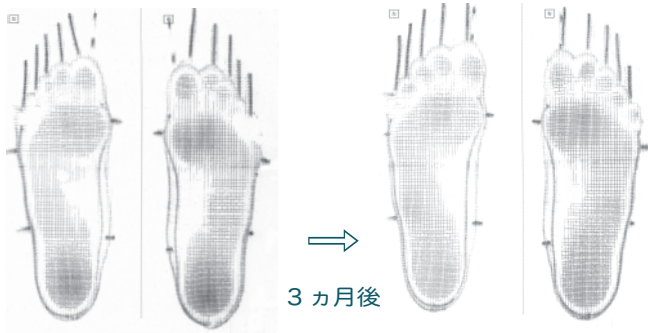
11歳の女子で、まだ外反母趾の痛みはないが、開張足(横のアーチの低下)で左の母趾はすでに外反し始めていました。扁平足、X脚で腰痛も出ていたので診察を受け、外反母趾への対処も早くできました。

足底板の使用と筋力トレーニングを続けた結果、3ヵ月後には動かなかった足趾が動くようになり、左の母趾の外反は見事に改善。3ヵ月後のフットプリントでは、浮き上がっていた第4、5趾もつくようになり、5本の趾でしっかりと大地をつかめるようになったことが良くわかります。



扁平足も改善が見られ、腰痛もすっかりなくなったとのこと。

早めの対応で、効果が上がった好いケースです。



症状が進行していて改善が困難

10歳の女子で、診察を受けた時にはすでに外反母趾がかなり進行しており、X脚で内股歩きでした。

学校の許可を得て上履きもハイカットシューズに替え、で



きるだけ長時間足底板を使用するようにした結果、6ヵ月後にはX脚はかなり改善し、アーチの形成も見られますが、外反母趾にはまだ変化がありません。

すでに脱臼が進行しているためか、外反母趾の角度自体の改善がなかなか難しいケースです。

それでも、あきらめずに足底板と足の体操を続ければ、少なくともこれ以上の進行は防げますし、成長に伴いある程度の改善も期待できるでしょう。

小さい時からの歩かない生活、柔らかすぎるベビー靴、子供靴、そしてフニャフニャの学校の上履き、裸足になりたくても土のない校庭、コンクリートの住まい、・・・と、扁平足や外反母趾を生み出す現代の子供たちを取り巻く環境。

病院に通ってリハビリしたり、足底板を作ったり・・・、そんな大変なことをしなくても済むように、子供たちの生活環境をもっと自然なものに、もっと人間的なものに変えていく方法を、私たち大人が考えなくてはと思うのですが・・・。

先日届いたドイツの整形外科靴マイスターの専門雑誌には、ドイツ各地に、大人も子供も裸足で園内を散歩できる公園があることが紹介されていました。

裸足で木の葉の積もったフカフカの道を歩いたり、大きな丸太の上を伝ったり、小川のせせらぎをピチャピチャ渡ったり・・・。裸足で歩くことでしっかりした健康な足をつくるのはもちろんのこと、足の裏への様々な感触や刺激が、心や体の成長にも大きな影響を与えることでしょう。

まだまだ、私たちがドイツ人を見習うべきことはたくさんあるようです。

新しいナース・シューズができました

生産中止になったショット・サンダルに代わる新しいナース・シューズの開発を進めていましたが、このほど、3種類を提供できることになりました。

いずれも、表面は汚れを拭けるように合成皮革にし、足に触れるライニングには牛革を使っています。

また、装着されている日本人標準のオリジナル・フットベッドが脱着式ですので、足底板との入れ替えはもちろんのこと、自分用に補正したフットベッドを装着することもできます。



¥15,540(税込)



¥15,540(税込)



¥15,540(税込)